

令和6年第1回鳥取警察署協議会開催状況

開催日時	令和6年2月20日(火)午後2時から午後3時30分まで	
開催場所	鳥取警察署、科学捜査研究所	
出席者	委員 (定数17人)	黒川会長、松田副会長、藤井委員、栗岡委員、依藤委員、島田委員、濱崎委員、大谷委員、木原委員、西村委員、小谷委員、谷岡委員、橋本委員、坂口委員、近藤委員、河合委員 以上16人
	警察	柴田署長、山根副署長、近藤警務課長、生活安全課員、警務課員2人 以上6人
議 事 概 要		
<p>1 挨拶</p> <p>(1) 会長挨拶</p> <p>新年早々に能登半島で震度7の地震を観測し、痛々しい大災害となった。鳥取県からも様々な部隊が被災地に派遣され、支援に当たっており、我々はそうした方々に敬意を持つとともに大変感謝している。 被災された方々が少しでも早く、穏やかに過ごせる日が来ることを願ってやまない。</p> <p>昨年11月、警察本部で警察署協議会代表者会議が開催され、各警察署協議会の会長が出席した。その会議では、委員からの提言を受けて警察署で取り組んだ事例のほか、各警察署が抱える地域特有の問題、喫緊の課題などが報告された。</p> <p>当署の協議会からは、犯罪被害者等支援に係るひまわりの絆プロジェクトを推進し、警察署と協議会が協働して取り組んでいくことを強調して報告した。</p> <p>来年度から開催する協議会での協議事項は、委員からアンケートを取って決めることとなった。委員の皆様の御意見を反映して、しっかりと協議していきたい。</p> <p>委員の皆様には、一層の御協力をお願いする。</p> <p>(2) 警察署長挨拶</p> <p>委員の皆様には、それぞれの立場で警察にお力添えいただき、本当に感謝している。</p> <p>能登半島地震や羽田空港での衝突事故など、本年は大変な幕開けとなった。本日は、今年度最後の警察署協議会となり、現体制での開催は最後となる。</p> <p>本県の刑法犯認知件数は、平成16年以降17年連続して減少していたが、令和3年から増加に転じ、令和5年は令和4年に続いて刑法犯抑止目標の2,000件を上回る2,100件となった。なかでも特殊詐欺は、認知件数、被害額とも前年を大幅に上回り、大変厳しい状況である。</p> <p>特にSNS等で投資を勧誘する手口や、インターネットバンキングで送金させる手口では、被害額が1,000万円を超えるケースもあった。</p> <p>また、タクシー強盗殺人事件は発生から14年が経過したが、いまだ被疑者の検挙に至っておらず、特別報奨金制度が再延長されたところである。</p> <p>さらに昨年の県内の交通死亡事故死者数は令和4年と同じ死者数14人で、県警察が統計を有する昭和23年以降で、昭和24年の9人に次ぐ少ない人数であった。一方、交通事故発生件数は656件、負傷者数は762人で、19年ぶりに増加し、管内でも5人の尊い命が失われた。</p> <p>今月15日には、警察本部で定例公安委員会があり、その席上で、鳥取警察署の取組として、ひまわりの絆プロジェクトを紹介し、各公安委員から賞賛をいただいた。引き続き御協力をお願いする。</p> <p>本日は限られた時間であるが、皆様の貴重な御意見を賜りたい。</p>		

2 報告事項

(1) ひまわりの絆プロジェクト

警務課長が、ひまわりの絆プロジェクトの取組状況について説明した。

(2) 特殊詐欺被害防止DVD視聴

生活安全課員が、特殊詐欺被害の概況説明を行った後に、特殊詐欺被害防止DVDを視聴した。

3 科学捜査研究所見学

科学捜査研究所の職員が、活動状況の説明を行った。

委員からの主な質疑等とそれに対する警察の回答は次のとおりであった。

委員：覚醒剤が抽出できるのは、どのような資料か。

警察：人の尿、血液などが代表的なものである。

委員：科学捜査研究所の職員は警察官か。

警察：一部を除き、ほとんどが行政職員である。

委員：科学捜査研究所の職員になりたい場合、警察官の採用試験を受験するのか。

警察：警察官の採用試験とは別である。専門職での採用となる。

委員：DNA型は、何から調査できるのか

警察：血液、唾液や毛髪等である。